

# 第1章 はじめに

木津川市生涯学習推進計画 きずなプラン





## 第1章 はじめに

### 1 生涯学習とは

生涯学習というと「堅苦しい」「難しそう」というイメージを持たれるかもしれませんが。また、生涯学習は「時間に余裕のある退職後の高齢者が行うもの」「講座や教室で学ぶこと」というイメージをお持ちの方もおられるでしょう。もちろん、それらも生涯学習の1つではあります。

生涯学習には、人が生まれてから死ぬまでの間に行われる学びはすべて含まれています。例えば、読書、演劇鑑賞やスポーツ、ボランティア活動などもその中に含まれます。子どもたちが遊びの中で社会のルールを身に付けることも生涯学習の1つだといえます。

このように、生涯学習とは決して難しいものではなく、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できるものであり、その内容も様々なものがあります。

その目的も「健康で豊かな生活を営むため」「仕事に必要な知識や技能を身に付けるため」「生きがいのある充実した人生にするため」など様々ですが、皆さんが学んだ成果を地域文化の向上や豊かな地域社会の実現に結びつけることができれば、木津川市の目指す生涯学習社会の実現に近づくことができるでしょう。

時間に余裕がない方でも、自分に適した方法や内容を見つけて、気軽に取り組むことができるもの、それが生涯学習なのです。

### 2 計画策定の背景

1980年代、経済発展、高齢化社会の到来、余暇の増大などの社会情勢の変化に対応し、社会の様々な教育機能を総合的に整備・充実しようと、それまでの学校中心の教育体系を生涯学習中心の体系へと移行する必要性を、当時の臨時教育審議会が示しました。

また、平成2年7月には生涯学習に関する初めての法律である「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」が施行されました。その後、生涯学習振興のための拠点整備が進められ、社会の動向に対応した新しい時代を拓く生涯学習が進展しています。

木津川市の誕生から7年が経過した今、市民一人ひとりが生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、生涯学習社会実現のための基本的な考え方や方向性を示し、木津川市の生涯学習推進の指針とするためにこの計画を策定するものです。

### 3 計画の位置づけ

平成21年3月、木津川市の将来像を定め、それを実現するためのまちづくりの基本方針や重点戦略を示す第1次木津川市総合計画が策定されました。

また、平成25年度策定の教育振興基本計画では、木津川市の教育が目指すべき子ども像とともに学校、保護者、地域が一体となって創造する教育の方向と目標が明らかにされました。

これらの計画の理念、基本構想や基本計画には、生涯学習と密接に関連するものが多く、生涯学習の果たす役割の重要性が示されています。

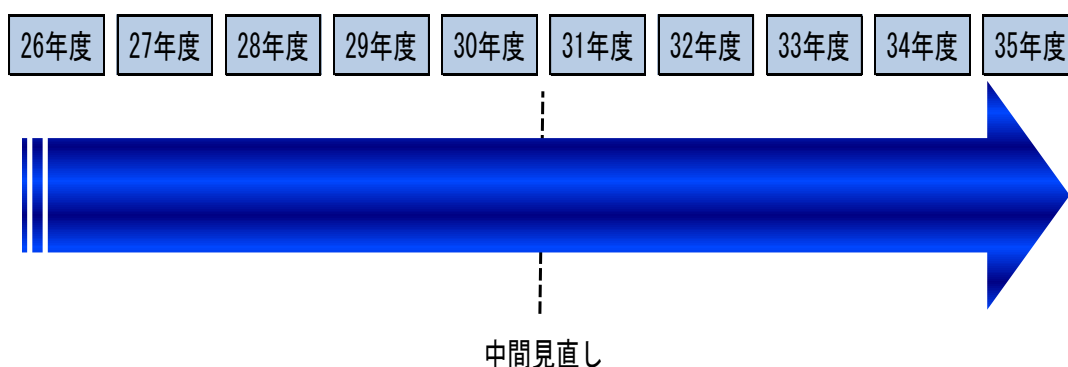
これらの計画に示されている生涯学習推進の考え方や関連事業を総合的に進めるために、今後取り組むべき施策や事業の具体化を図るためにこの計画を策定するものです。

### 4 計画の期間

本計画は、平成26年度から平成35年度までの10年間を計画期間とし、中間である平成30年度に見直しを行います。

なお、計画の進捗状況や社会情勢の変化などに対応して、必要に応じて見直しを行います。

また、計画を着実に進めるため、年次目標を定め、各施策の推進を図ります。



## ーフィールド調査からー

計画策定の参考資料とするため、平成25年1月から2月にかけて、社会教育委員が市内の施設や学校などを訪問し、サークルや関係機関など41団体を対象にフィールド調査を実施しました。調査の中で、特に計画策定のキーワードとなった回答結果についてお知らせします。

### Q 木津川市らしい生涯学習って何だろう？



## 5 木津川市の現状

### (1) 地勢

木津川市は、近畿地方のほぼ中央、京都府南部の山城地域に位置し、北は井手町、北東は和束町、東は笠置町、西は精華町、南は奈良市と接し、京都・大阪の中心部から30km圏内にあります。

北東部と南東側には山地が広がり、その間をぬって木津川が中心部を流れており、木津川に沿った地域に平野部が広がっています。

### (2) 歴史

木津川市は、山城地域の中でも古くから開けたところです。平城京に都があった頃は、木津川の水運による交通の要衝や平城京を中心とする官道の沿線地域として発展しました。

特に、木津地域は平城京の外港として整備され、物資の集散地であるとともに、瀬戸内・淀川・木津川を通じて大陸文化の大和入りの玄関口として大いに発展しました。

また、天平12年(740年)には聖武天皇が「恭仁京」を造営し、足掛け5年にわたり日本の首都となりました。

このように、当地域は京都と奈良を結ぶ軸上にあり、都に関連の深い地域として、人・物・文化の往来とともに、個性ある豊かな文化・産業を発展させ、今日の礎を築きました。

また、平成6年に「都市びらき」が行われた関西文化学術研究都市においては、「文化拠点の高度化と新たな文化学術の推進」や「未来を拓く知の創造都市の形成」などを目指したサードステージプランが、平成27年度を目標年次として展開されています。

### (3) 自然

木津川市には、平地部の田園、周囲の山々、丘陵部の木々、木津川などから構成される自然環境が豊富に存在します。これらは、重要な景観資源であると同時に、林業、農業などの生産活動や水源かん養、野生生物の生息空間、住民や来訪者のレクリエーションなどの場として重要な役割を果たしています。また、これらの緑と調和した歴史的、文化的遺産が数多くあり、地域の魅力を高める重要な要素となっています。

